

○担 任 者 小 川 一 仁

○テ ー マ 「空気」を読むべきか、読まざるべきか、それが問題だ。
—制度をキーワードに考えよう—

○指導概要 バラエティー番組や友人関係の中で「場の空気を読み」と言われることがあります。また、近年の若者は同調性が強く、周りの雰囲気流されやすいとも言われます。

では、なぜ「場の空気」を読む必要があるのでしょうか。実は、「空気を読むこと」が1つの【制度】となっているからです。【制度】とはご存じのように、法制度、社則、学則、礼儀作法、常識、慣例といったもの全てを指します。しかし、近年では「ある事柄について人々の間で共有されている考え方」も【制度】であるとされます。

、場の空気を読んだ行動、これらは全て【制度】と考えられます。【制度】は時代と場所、置かれている状況が違えば変化します。例えば、日本で喪服と言えば黒ですが、中国では白です。同じ産業、同じ規模の会社であっても年功序列的な賃金制度が採用される場合もあれば、成果主義的な賃金制度が採用される場合もあります。結婚における仲人も立派な【制度】です(最近は廃れましたが)。ネットオークションのルールも【制度】です。

平成 24 年度の専門演習では、【制度】がどのように確立されるのか、どのように変化するのか、かつては合理的だったけれど、今となっては非合理的な制度がなぜいまだに残っているのか、を多角的に分析したいと考えています。そのためには分析するための道具が必要です。そこで、テキストとして中林・石黒編『比較制度分析・入門』を輪読し、制度分析の基礎を身につけてもらいたいと思います。さらには、制度評価の手法である経済実験と質問紙調査のあらましも学習します。

以上の学習の前提としては(積極的に受容するにせよ、批判的に受け入れるにせよ)ゲーム理論に代表される経済学的な思考が必要です。そこでサブゼミやプレゼミを通じて、基本的な経済学の学習も平行して行う予定です。特に統計データの取り扱いについて学習する予定です。

卒業論文については3年生の後期開始時に、暫定的に卒業論文のテーマを決定してもらいます。3年次後期にはそれに従い、様々な文献を読み込んだり、理論の勉強や実験やアンケートの手法といった調査技術を勉強します。4年次では、卒業論文の作成を中心に進めていきます。

3年次の夏休みには他大学との合同ゼミ合宿を行う場合もありますので、その場合はそちらのための勉強も別途行います(平成 23 年度は韓国・仁川大学と行い

ましたが、24年度は国内の大学を構想中です)。

○応募者への課題 1か2のどちらかを選択してください。

1. ステイグリッツ(川越・小川・佐々木訳), 『オークションの人間行動』, 日経BPの第1章を読み、内容を要約してください。
2. スティーヴン・D・レヴィット, スティーヴン・J・ダブナー (望月訳), 『超ヤバイ経済学』, 東洋経済新報社を読み, あなたの印象に残った1章の内容を要約して提出してください。

○教科書 中林・石黒編『比較制度分析・入門』, 日経BP社, 2009

○参考文献 授業中に指示します。

○応募者への要望 社会常識の遵守(時間を守る、欠席の連絡、報告を逃げない、ゼミで行われる各種行事への参加...)をお願いします。